

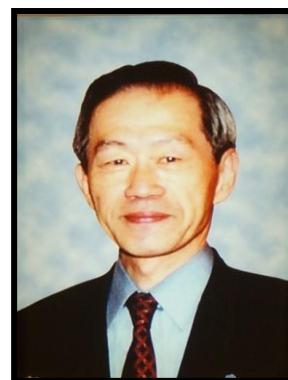
## 河波利夫氏を悼む

大西 宏司

株式会社ニッカト

連絡先 h-ohnishi@nikkato.co.jp

河波利夫氏は、かねてよりご療養中のところ去る2月1日に死去されました。享年82歳でした。河波氏は1957年に京都工芸繊維大学工芸学部窯業工芸学科を卒業され、同年日本化学陶業株式会社(現株式会社ニッカト)に入社された後、長年にわたり同社の研究開発に従事し、アルミナやジルコニアなどのセラミック製品の開発や研究指導、後進の育成に尽力されました。1995年には同社取締役社長に就任され、会社発展に大きく貢献されました。数多い研究成果の中でも高強度ジルコニア製粉碎機用部材の開発では、1999年に科学技術長官賞を、2001年に黄綬褒章を受賞されました。また、ニューセラミックス懇話会との関わりも深く、長年にわたり、理事、行事委員長、副会長を務められ、懇話会の発展に尽力されたと伺っております。



故 河波 利夫 氏

私は1981年に入社し、技術部に配属され、長年、河波氏の部下として研究開発に従事してきました。普段は実験に対して何か言われることはほとんどありませんでしたが、ここぞという所では非常に当を得た指摘を受け、何の返答もできず、苦慮したことや同じ実験の失敗でも次につながらないような失敗をすると厳しく怒られたことが多々あり、“怖い上司”という印象が強くありました。一方で、“考える”ことの重要性、難しさというものを教えて頂くと共に研究開発のおもしろさも教えて頂きました。そのお陰か、セラミックスの研究開発に飽きることなく、おもしろく続けてこれたと大変感謝しております。

私が入社したころから、世の中にセラミックスブームが起こり、色々な学会でセラミックスの研究発表が非常に多くなされ、学会へは河波氏の鞆持ちのような形で同行させて頂きました。大学、研究機関、企業を問わず、色々な方との面識が広く、大学の先生を始め、企業の研究者の方々を紹介して頂き、その時にお知り合いになった方々とはその後も何らかの形でお付き合いさせた頂き、色々な方々とお知り合いになれたことは、今となっては私の大事な宝物となっております。

社長になられてからは、“今のご時世、企業の研究者といえども学位を取っておかなくてはだめだ”と言われ、河波氏が自ら、前長岡技術科学大学学長の新原先生にお話し、学位授与への道筋をつくって頂き、2009年に学位を授与頂いたことは感謝しきれません。

河波氏と長年のお付き合いさせて頂いたことを振り返ると書ききれないほどのことをお教え頂き、今の私の物の考え方というものを作って頂いたように感じております。今、思えば“怖い上司”ではありましたが、“心の温かい上司であり人生の先輩”であったと痛感する次第です。

河波氏が私にお教え頂いたことへの感謝と共に会社の若い技術者たちへ“考える”ことの重要性と研究開発のおもしろさを伝えていきたいと思っております。